



2018年2月6日(火)

琉球新報 掲載

産業活動

宮里 好一氏 医療法人タピック理事長

# 時代が求める価値追求

琉球大医学部の発足を支えるため沖縄に戻って研究を続けていたところへ、名護市で民間病院の経営問題が持ち上がった。地域医療の存続を願う地元の要請に応え、1990年に「宮里病院」を開設。在野の医療経営に踏み出した。

宮里病院は「脳とこころの医療センター」として、認知症の正しい理解を広げる先駆けとなった。96年の沖縄リハビリテーションセンター病院開業は、医療としての認知が低かったリハビリの地位を高め「時代や県民が求める価値があるかが大切」と患者本位の姿勢で道を開いてきた。

TAPIC(タピック)グループは現在従業員が1600人を超え「社会的課題の解決に貢献する事業」を経営の使命に掲げる。観光やスポーツと連携した医療ツーリズムの拠点を担うユインチホテル南城は、沖縄の観光リゾート産業の新モデルとして存在感を示す。

「新しい成熟社会に挑む日本とダイナミックに発展するアジアの間で、沖縄が大きな役割を果たす時代が来る」と視界を世界に広げる。



みやざと・よしかず 1954年1月5日生まれ。沖縄市出身、岡山大医学部卒。医療法人TAPIC(タピック)理事長として宮里病院、沖縄リハビリテーションセンター病院、ユインチホテル南城などを展開する。

「病院経営を通して時代の求める価値があるかが大切だと学んだ」と語るTAPIC理事長の宮里好一氏  
 〓 沖縄市の沖縄リハビリテーションセンター病院